

有用遺伝資源の評価・利用

【研究概要】

ブバルディアの第2期3品種の現地試作を行い、各品種の生育特性や市場性は既存品種と同等であることを確認した。今後の研究・利用上の基礎資料とするため、第2期品種等の香気成分の分析と官能評価を行った。

未利用遺伝資源の有効活用の基礎資料とするため、都産ウドの根株のクロロゲン酸含量を評価した。

ハウレンソウの4月下旬まき品種の検討を行い、草姿や株張りが良好で収量性に優れる「イーハセブン」、生育の揃いや株張りの優れる「サンホープセブン」、草姿や各形質が総合的に優れる「晩抽サマーヒット」を選定した。

ダイコンの10月中下旬どり品種の検討では、根の大きさや形状の揃い、肌質と内部品質に優れる「SC8-182」と「夏ゆたか」を選定した。

種苗供給事業として、育成品種ワケネギ「東京小町」の原苗400本、イチゴ「東京おひさまベリー」の原苗50株を東京都種苗会へ分譲した。

12月上中旬咲きの赤色系の寒菊品種（9品種）について切花特性を評価し、花数や花弁の丈夫さから「寒あまね」、八重花のボリュームと花色の合わせやすさから「夕映え」、花色の淡さや花の大きさから「ミーア」、花色の明るさや緑芯の良さから「テリーサ」が良好であることを明らかにした。